

〈追悼〉

北山さんを偲んで

武田 丈

北山さんは、今年度をもって関学の職員を定年退職される予定でした。私が室長をお引き受けしたのは、開設前からずっとこの人権教育研究室の運営に中心にかかわってこられた北山さんから、この1年間に研究室の運営についていろいろと学ばせていただき、それを北山さん定年後に担当される新しい職員の方にお伝えする必要があると思ったからだったのですが、それがこのようなことになり、本当に残念です。

私が初めて北山さんとお会いしたのは、今から15年近く前、私が関学に着任して数年たったときのことでした。人権教育研究室のプロジェクトとして、『国際人権百科事典』の翻訳チームのメンバーに私はいれていただきました。その際に、初めて北山さんにお会いしたと思います。

北山さんは、皆さんご存知のように、関学の人権教育を職員としてずっと支えてこられた方で、ある意味、人権のスペシャリストでした。一方、私の専門は社会福祉だったのですが、当時の私は、自分の研究や教育の中で人権ということをはほとんど意識していませんでしたし、今でも大したことはありませんが、当時は今以上に人権に関する知識がありませんでした。

そうした人権の意識も低く、また若手のペーパーの研究者であった私に対しても、北山さんは親しく接してくださいました。また当時、私が代表として総合コースで開講していた「ヒューマン・セクシュアリティ」という授業が開講年限いっぱいになったときに、人権教育科目として開設できないか相談したときにも、すぐに対応してくださり、人権教育科目への移行の手続

きを手伝っていただきました。また、私のゼミ生たちのフィールドワークの案内役をお願いした時も、釜ヶ崎やコリアタウンを案内して説明してくださり、最後には学生のために安くておいしい焼肉屋にも案内してくださいました。

関学には、年に何回かビッグイシューの販売員の野宿者の方が販売に来られ、人権教育研究室の研究会で実際に販売員の方に登壇していただいてパネルディスカッションやワークショップを開催したこともありますが、来校された販売員の方は必ず北山さんのところに立ち寄って話をされてから帰られるそうです。

このように北山さんは、私のような当時ペーパーで人権の「じ」もわからない教員に対しても、また学生に対しても、ビッグイシューの販売員に対しても、分け隔てなく、フレンドリーにいつも接してくださる方でした。

ただ私が特に北山さんと親しくなり、長時間一緒にお仕事をするようになったのは、4年前に始めた、毎年5月に開催している関学レインボーウィークが大きかったと思います。キャンパスの中の多様性、特にセクシュアリティに関する多様性を認識し、尊重する風土をキャンパスに根付かせようとするこのイベントは、北山さんなしには誕生しなかったと思いますし、ここまで中身が充実はしなかったと思います。毎年ボランティアの学生や卒業生と前年の11月ぐらいから準備のミーティングを5限後に開催しているのですが、北山さんはもちろん毎回出席してくださいました。そして、お腹をすかしているであろう学生たちのために、いつもお茶とお菓子を用意してくださいました。また、

学生や私がレインボーウィークに関して突拍子もないアイデアを出しても、まあ北山さんご自身も結構ラディカルなアイデアを提案されていたのですが、そうした意見を否定することもなく、できるだけ実現できるように陰で本当に精力的に尽力してくださいました。私が予算をかけすぎることが心配している時も、「武田先生、大丈夫ですよ。やりましょう。なんとかしますよ。」といつも前向きに活動を支援してくださいました。

また、性的マイノリティの学生のために週に一度場所を提供して、そうした学生たちが他の学生のことを気にせず素の自分のままで昼ご飯が食べられるランチ会も、北山さんの尽力ですぐに実現することができました。毎週、北山さんは学生たちにお茶を提供し、あとは部屋の片隅で静かに学生たちを見守っておられました。今から思うと、関学内でのセクシュアリティの多様性の理解を深める活動は、北山さんにとって定年前の最後の大事な仕事として捉えられていたのかもかもしれません。

このように北山さんは人権意識にあふれ、誰に対しても親しみをもって接してください、また人権に関する熱い思いを持ちながらもひょうひょうと関学の人権教育や人権教育研究室を支え続けてくださいました。

精神的な柱であり、事務的な作業をアルバイト職員の山本さんとともに一手に引き受けてくださっていた北山さんの抜けた穴はとてつもなく大きいですが、残された我々一人ひとりが北山さんの遺志を継ぎ、これからの関学の人権教育、人権教育研究室を支えていかなければと思います。

北山さん、これまで長年、関学の人権教育、人権教育研究室を支えてくださり、本当にありがとうございました。まだまだ北山さんからいろいろと学びたかったですし、一緒に仕事をしたかったです。でも残念ながらあなたはこの世から旅立っていかれました。どうか、これからの我々の取り組みを、天国からずっと見守り続けてください。北山さん、さようなら。どうぞ安らかに眠りください。